

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】 第 1 部門第 2 区分
【発行日】 令和 6 年 8 月 20 日 (2024.8.20)

【公開番号】 特開 2023-26311 (P2023-26311A)
【公開日】 令和 5 年 2 月 24 日 (2023.2.24)
【年通号数】 公開公報 (特許) 2023-036
【出願番号】 特願 2022-83218 (P2022-83218)
【国際特許分類】

A 6 3 H 3/46 (2006.01)

A 6 3 H 3/36 (2006.01)

A 6 3 H 33/08 (2006.01)

【F I】

A 6 3 H 3/46 B

A 6 3 H 3/36 G

A 6 3 H 33/08 F

【手続補正書】

【提出日】 令和 6 年 8 月 9 日 (2024.8.9)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】 特許請求の範囲

【補正対象項目名】 全文

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

人形型玩具であって、

一部にリング形状の連結部を有する第 1 パーツと、

前記第 1 パーツと関節を形成し、前記リング形状の連結部を嵌め込む凹部を有する第 2 パーツとを備え、

前記第 2 パーツは一つのパーツとして形成され、

前記凹部の内側側面には前記リング形状の連結部を回転可能に保持する半円形形状の乗り越え部が形成され、

前記リング形状の連結部が前記第 2 パーツへ挿入されると、該連結部における挿入方向前方部分のリング内側が前記乗り越え部と接することを特徴とする人形型玩具。

【請求項 2】

前記乗り越え部は、前記凹部の奥部に形成されることを特徴とする請求項 1 に記載の人形型玩具。

【請求項 3】

前記乗り越え部は、前記リング形状の曲率に合わせて半円形形状で形成されることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の人形型玩具。

【請求項 4】

2 つの前記乗り越え部が、それぞれが前記リング形状の連結部の穴に両側から嵌め込まれるように、前記凹部の内側側面に互いに対面して形成されることを特徴とする請求項 1 乃至 3 の何れか 1 項に記載の人形型玩具。

【請求項 5】

2 つの前記乗り越え部のそれぞれは、互いにサイズが異なることを特徴とする請求項 4 に記載の人形型玩具。

【請求項 6】

前記第 1 パーツには、一方側に前記リング形状の連結部が形成され、他方側に球形状の

10

20

30

40

50

連結部が形成され、

前記球形状の連結部は、前記人形型玩具の上体部に連結され、

前記第 2 パーツのうち前記凹部が形成される端部とは反対側の端部には、前記人形型玩具の上腕が連結されることを特徴とする請求項 1 乃至 5 の何れか 1 項に記載の人形型玩具。

【請求項 7】

関節構造であって、

一部にリング形状の連結部を有する第 1 パーツと、

前記第 1 パーツと関節を形成し、前記リング形状の連結部を嵌め込む凹部を有する第 2 パーツとを備え、

前記第 2 パーツは一つのパーツとして形成され、

前記凹部の内側側面には前記リング形状の連結部を回転可能に保持する半円形形状の乗り越え部が形成され、

前記リング形状の連結部が前記第 2 パーツへ挿入されると、該連結部における挿入方向前方部分のリング内側が前記乗り越え部と接することを特徴とする関節構造。

【請求項 8】

前記関節構造は、人形型玩具の肩関節、股関節、肘関節、又は膝関節を形成することを特徴とする請求項 7 に記載の関節構造。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

本発明は、例えば、人形型玩具であって、一部にリング形状の連結部を有する第 1 パーツと、前記第 1 パーツと関節を形成し、前記リング形状の連結部を嵌め込む凹部を有する第 2 パーツとを備え、前記第 2 パーツは一つのパーツとして形成され、前記凹部の内側側面には前記リング形状の連結部を回転可能に保持する乗り越え部が形成されていることを特徴とする。

また、本発明は、例えば、人形型玩具であって、一部にリング形状の連結部を有する第 1 パーツと、前記第 1 パーツと関節を形成し、前記リング形状の連結部を嵌め込む凹部を有する第 2 パーツとを備え、前記第 2 パーツは一つのパーツとして形成され、前記凹部の内側側面には前記リング形状の連結部を回転可能に保持する半円形形状の乗り越え部が形成され、前記リング形状の連結部が前記第 2 パーツへ挿入されると、該連結部における挿入方向前方部分のリング内側が前記乗り越え部と接することを特徴とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

また、本発明は、例えば、関節構造であって、一部にリング形状の連結部を有する第 1 パーツと、前記第 1 パーツと関節を形成し、前記リング形状の連結部を嵌め込む凹部を有する第 2 パーツとを備え、前記第 2 パーツは一つのパーツとして形成され、前記凹部の内側側面には前記リング形状の連結部を回転可能に保持する乗り越え部が形成されていることを特徴とする。

また、本発明は、例えば、関節構造であって、一部にリング形状の連結部を有する第 1 パーツと、前記第 1 パーツと関節を形成し、前記リング形状の連結部を嵌め込む凹部を有する第 2 パーツとを備え、前記第 2 パーツは一つのパーツとして形成され、前記凹部の内側側面には前記リング形状の連結部を回転可能に保持する半円形形状の乗り越え部が形成さ

10

20

30

40

50

れ、前記リング形状の連結部が前記第２パーツへ挿入されると、該連結部における挿入方向前方部分のリング内側が前記乗り越え部と接することを特徴とする。

10

20

30

40

50